

商品名 トリモール錠2mg 医薬品基本情報

薬効	1169 その他の抗パーキンソン剤	一般名	ピロヘプチン塩酸塩錠
英名	Trimol	剤型	錠
薬価	6.10	規格	2mg 1錠
メーカー	長生堂製薬	毒劇区分	

トリモール錠2mgの効能・効果

パーキンソン症候群

トリモール錠2mgの使用制限等

1. 閉塞隅角緑内障、本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴、重症筋無力症、前立腺肥大、尿路に閉塞性疾患	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	禁止
2. 開放隅角緑内障、頻拍傾向、不整脈、類薬で過敏症の既往歴、胃腸管に閉塞性疾患、栄養不良状態を伴う身体的疲弊、脱水を伴う身体的疲弊、腎機能障害、肝機能障害	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	注意

トリモール錠2mgの副作用等

1. 悪性症候群、発熱、無動緘黙、意識障害、強度筋強剛、不随意運動、嚥下困難、頻脈、血圧変動、発汗、白血球増加、血清CK上昇、ミオグロビン尿、腎機能低下	記載場所	重大な副作用
	頻度	頻度不明
2. せん妄、眠気、めまい、頭痛、倦怠感、不眠、脱力感、口渇、悪心、嘔吐、便秘、食欲不振、胃部不快感、排尿困難、過敏症、発疹、そう痒感、調節障害、鼻閉	記載場所	その他の副作用
	頻度	5%未満
3. AST上昇、ALT上昇	記載場所	その他の副作用
	頻度	0.1%未満
4. 熱感、眼瞼浮腫	記載場所	その他の副作用
	頻度	0.1%未満

5. 発汗抑制、悪性症候群、せん妄、不安、精神症状、口渇、排尿困難、便秘

記載場所 使用上の注意

頻度 頻度不明

トリモール錠2mgの相互作用

1. 薬剤名等：抗精神病薬との併用

発現事象

発汗、頻脈、意識障害、ミオグロビン尿、血圧変動、腎機能低下、白血球増加、発熱、無動緘黙、嚥下困難、悪性症候群、強度筋強剛、不随意運動、血清CK上昇

理由・原因

-

投与条件

抗パーキンソン剤（ビペリデン等）及び併用薬の減量又は中止

指示

注意

2. 薬剤名等：抗うつ剤との併用

発現事象

発汗、頻脈、意識障害、ミオグロビン尿、血圧変動、腎機能低下、白血球増加、発熱、無動緘黙、嚥下困難、悪性症候群、強度筋強剛、不随意運動、血清CK上昇

理由・原因

-

投与条件

抗パーキンソン剤（ビペリデン等）及び併用薬の減量又は中止

指示

注意

3. 薬剤名等：ドパミン作動系抗パーキンソン剤との併用

発現事象

発汗、頻脈、意識障害、ミオグロビン尿、血圧変動、腎機能低下、白血球増加、発熱、無動緘黙、嚥下困難、悪性症候群、強度筋強剛、不随意運動、血清CK上昇

理由・原因

-

投与条件

抗パーキンソン剤（ビペリデン等）及び併用薬の減量又は中止

指示

注意

4. 薬剤名等：抗コリン作用を有する薬剤

発現事象

悪心、食欲不振、腸管麻痺、麻痺性イレウス、嘔吐、著しい便秘、腹部の弛緩、腹部の膨満、腸内容物のうっ滞

理由・原因

本剤及びこれらの薬剤は抗コリン作用を有するため、併用により相互に抗コリン作用を増強

投与条件

-

指示

注意

5. 薬剤名等：中枢神経抑制剤

発現事象

精神錯乱、眠気、精神運動機能低下

理由・原因

本剤及びこれらの薬剤は中枢神経抑制作用を有するため、併用により相互に中枢神経抑制作用を増強

投与条件

-

指示

注意

6. 薬剤名等：ノルアドレナリン遊離抑制作用を有する血圧降下剤

発現事象

作用を減弱させ降圧効果が低下

理由・原因

本剤が、アドレナリン作動性ニューロンへのグアナチジンの取り込みを抑制し、グアナチジンの作用を減弱

投与条件

-

指示

注意



薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量

医薬品データベースの決定版 『 DIR 』

Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.